

鐵 と 鋼 第五年 第四號

大正八年四月二十五日發行

◎第四回通常總會記事

大正八年三月二十九日(土曜日)午後二時より第四回通常總會を本會事務所に於て開く、當日出席者は正會員三十九名准會員一名にして其氏名左の如し。

出席者 (出席順)

今泉嘉一郎	野呂景義	香村小録	倭國一	一色虎兒
桂辨三	原田鎮治	大藤良雄	野田鶴雄	佐藤秀松
野田正一	高橋章藏	糸山幸一	杉浦調三	日向庄作
近藤高	横堀治三郎	牟田易太郎	鹽田泰介	井上禧之助
大塚榮吉	服部可一	上村行榮	遠藤隆太	尾花信
阪田貞一	佐藤耕夫	武信謙治	門野重九郎	寒川恒貞
福本清藏	田中元次郎	野並龜治	井上克己	小方嘉一郎
谷廣賢	宮崎虎一	落合畑三郎	大矢喜兵	

外に准會員一名(氏名省略)

○會長今泉嘉一郎君議長席に着き豫て通告せる左の議案に就き報告並に決議をなすこと左の如し。

第一 大正七年度會務及決算報告(別項所載)

第二 理事任期滿了改選の件

第三 評議員半數改選に關する件

理事及評議員選舉に關する件は委任投票人員九十七名之れに出席正會員三十九名合計百三十六名の投票を以て凡て評議員會の推薦せる各候補者か選舉せられたり。其氏名左の如し。

理事 (重任)

今泉嘉一郎 野呂景義 倭國 一 香村小錄 寺野精一

評議員

井上禧之助	桂 辨 三	服 部 漸	堀 悌三郎	田 中 不二
種子田右八郎	野 田 鶴 雄	島 岡 亮 太 郎	阪 田 貞 一	鹽 田 泰 介
中大路氏道	森 岡 平 右 衛 門	中 村 雄 次 郎	島 安 次 郎	(以上重任)
中島久萬吉	今 村 甚 一	松 下 長 久	三 宅 川 百 太 郎	一 色 虎 兒
大河内正敏				

右にて總會を終り、左の演説ありたり。(演説速記は次號に掲載すへし)

電氣製鐵に就て

工學博士 桂 辨 三 君

ゲリー、システムに就て

水崎基一君

暫時休憩の上(于時午後六時)新橋驛樓上の東洋軒に於て懇親會を開く、出席者は左の諸氏なり。

(三十名)

今泉嘉一郎	野呂景義	香村小錄	倭國一	一色虎兒
桂 辨 三	原田鎮治	大藤良雄	野田鶴雄	佐藤秀松

野田 正一 高橋 章藏 糸山 幸一 杉浦 調三 日向 庄作
 近 藤 高 横堀 治三郎 牟田 易太郎 鹽田 泰介 井上 禧之助
 大塚 榮吉 服部 可一 上村 行榮 遠藤 隆太 尾 花 信
 阪田 貞一 佐藤 耕夫 武信 謙治 落合 畑三郎 大矢 喜兵
 宴會の半に於て野呂君、鹽田君、横堀君、原田君、俵君、阪田君及今泉君等の卓上演説ありて一同歡を盡し午後八時退散せられたり。

前記總會に於て報告せる大正七年度會務及收支決算報告左の如し。

大正七年度會務報告

自大正七年三月一日
 至大正八年二月二十八日

一、集 會

評議員會

五回

理事會

五回

編輯委員會

十二回

特別委員會

二回

二、會誌の發行

會誌第四年第三號より第五年第二號迄を毎月一回宛發行せり。

三、會員異動

入會者

正會員

百六名

准會員

百六十名

退會者

正會員

一名

准會員

二十二上

死亡者

四名

准會員より正會員に異動 三名

現在會員數 大正八年三月二十五日調

正會員 六百七十六名

准會員 八百二十三名

賛助會員 一名

合 計 一千五百名

四、製鐵事業方針並時局救済に關する件

大正八年一月八日評議員會を開き、戰後に於ける製鐵事業に對する方針に付討議せしか、結局特別委員十三名を推薦して調査することとし、一月十六日及二月三日に特別委員會を開き、製鐵事業方針並時局救済に關する建議書の草案を作製せり。二月八日評議員會を開き、右建議書を其筋に提出することの承認を經、二月十二日會長今泉嘉一郎之を農商務大臣山本達雄殿に提出し、又二月十八日同上建議書を軍需局長原象一郎殿に提出せり。

以 上

右及報告候也

大正八年三月二十九日

日本鐵鋼協會

會 長 今 泉 嘉 一 郎

大正七年度收支決算報告

收入之部

正會員會費

三、四、二、三、五、二〇